

やま や ぼん がく めん
山谷番楽面

- 1 種 別 有形民俗文化財
- 2 名称及び員数 山谷番楽面 15面
- 3 制作年代 室町時代末期～江戸時代末期
- 4 所在地 秋田市太平山谷字野田 せいめん 生面神社
- 5 所有者 個人
- 6 説明

本面は、生面神社の社殿が明治22年（1889）に建てられた際、15面まとまって納められたといわれる。

山谷番楽は秋田市太平山谷に伝わる民俗芸能で、山谷生面番楽とも呼ばれた。この地域が太平山への登山口の一つであったことから、太平山信仰にかかわる修験者が伝えたものといわれている。番楽は、生面神社で行われた初午の祭典などの際に舞われていたほか、旧暦の7月7日の幕開きから11月1日の幕納めまでの期間は近郷近在を巡行して舞って歩いたもので、門付けの要素もみられた。また面は、番楽だけでなく、年明けとともにこの地域の家々を廻って家内安全や無病息災を祈る春祈禱にも用いられていた。

本面は、県内に残る番楽面の中では古い時代のものも含まれており、地域に伝承されている芸能や信仰と一体となって永く伝えられてきたものであることから貴重である。

参 考

秋田市指定有形文化財（彫刻） 能・狂言面 13面 昭和37年（1962）4月9日

参考文献

嶋田忠一「秋田県の仮面」『秋田県立博物館研究報告』第7号 秋田県立博物館 73-94頁 昭和57年（1982）3月

秋田市 『秋田市史』第15巻美術・工芸編 458-461頁 平成12年（2000）3月31日

秋田市 『秋田市史』第16巻民俗編 610-612頁 平成15年（2003）3月31日

1 翁 (おきな)



表

裏

【寸法】 19.3×14.4×7.2(ハナ)

2 黒色尉 (こくしきじょう)



表

裏

【寸法】 18.3×13.8×5.5(ハナ)

3 皺尉 (しわじょう)

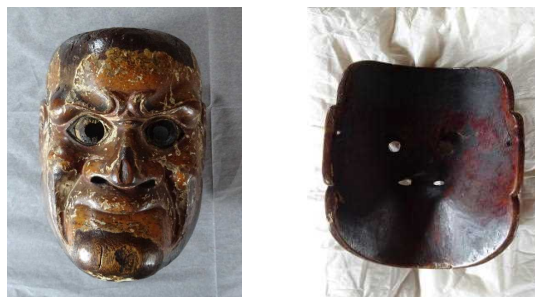


表

裏

【寸法】 20.3×13.8×8.2(ハナ)

4 小癡見 (こべしみ)



表

裏

【寸法】 20.2×16.8×6.8(アゴ)
眉間部分に10条、鼻部に3条の「知らせ鉋」有り

5 大癡見 (おおべしみ)



表

裏

【寸法】 21.5×15.3×8.0(ハナ)
「大信」の刻銘有り

6 雷 (いかづち)



表

裏

【寸法】 22.8×15.0×9.5(ハナ)

7 頼政 (よりまさ)



表

裏

【寸法】 20.1×13.3×7.2(ハナ)
眉間部分に10条、鼻部に3条の「知らせ鉋」有り

8 山姥 (やまうば)



表

裏

【寸法】 20.4×13.8×8.4(ハナ)
眉間部分に10条、鼻部に3条の「知らせ鉋」有り

9 橋姫 (はしひめ)



表

裏

【寸法】 20.1×14.9×8.0(ハナ)
「天下一是閑」の焼印有り

10 若女 (わかおんな)



表

裏

【寸法】 20.0×13.8×8.4(ハナ)

11 増 (ぞう)



表

裏

【寸法】 20.2×13.3×5.8(ハナ)
「イセキ◇(花押)」の刻銘有り

12 慈童 (じどう)



表

裏

【寸法】 19.4×13.6×6.0(ハナ)

13 姥 (うば)



表

裏

【寸法】 18.6 × 14.0 × 6.2(ハナ)
「一透作」「渋手」「兵庫」の刻銘有り

14 尉 (じょう)



表

裏

【寸法】 21.1×15.5×6.7(ハナ)

15 嘘吹 (うそぶき)



表

裏

【寸法】 19.5×14.8×6.3(口)

※ここで示す各面の名称は、地域に言い伝えられてきたものによる。